家康公の生誕地

三河 岡崎

目指すは、「観光産業都市」

岡崎市は徳川家康の生誕の地。
岡崎城をはじめ数々の史跡に恵まれ、
今回の事業を始める以前から『グレート家康公「葵」武将隊』の結成やキャラクターグッズの販売など、
市をあげてのユニークな取り組みで観光に力を入れてきた。
さらに、来年の「徳川家康公顕彰四百年記念」、
再来年の「岡崎市制百周年記念」に向けて、市と商工会議所が連携し
「観光産業都市」を目指したPR活動に一層拍車がかかっている。

岡崎公園内、三河武士のやかた家康館は充実した展示が評判

戦国武将がおもてなし

―家康への市民の関心は？

「岡崎では、家康公は郷土の英傑（えいけつ）。市民のほとんどは家康公の生誕地である地元を誇りに思っています。今回の記念事業でも、家康公に縁のある神社や寺が自ら誘客の相談にみえるなど、非常に前向きな姿勢が見られます。市の中央には乙川が流れ、駅から岡崎城に至る景観も有望な観光資源です。今後は家康公をテーマとした観光とともに緑豊かなリバーフロント構想を具体化していく方針です」

―家康を題材としたまちづくりの実例効果はいかがですか

「ここ数年、日本各地で戦国武将に扮した観光PR集団が注目を浴びていますが、当市でも2011年に『グレート家康公「葵」武将隊』を結成以来、ファンが全国から訪れるほどの反響ぶりで、観光売店の売上が結成前に比べ3割増、家康館の来場者数も2割強アップしました。家康公や徳川四天王等のキャラクターグッズも作成し、岡崎のPRに活用しています」

―記念事業に際しての展望をお聞かせください

「当市では、来年の記念事業に続いて再来年には『岡崎市制百周年記念事業』が控えています。そこで、市と商工会議所とが連携して2つの周年記念を機にさらなる観光客の誘致を図り、観光産業都市として全国に名乗りを上げようと奮闘しています。おかげさまで今年の4月に記念事業のPRとして行った『家康行列』には31万人の動員を記録しました。今後も花火大会や家康公生誕祭といった恒例行事の充実化を含め、数々の記念イベントを開催予定です。その他、記念事業のロゴ入り商品の販売などさまざまな分野に力を入れ、岡崎のさらなるイメージアップを図っていきたいと思います」

徳川家康公と徳川四天王（酒井忠次、本多忠勝、榊原康政、井伊直政）たちが揃った「グレート家康公「葵」武将隊」。迫力あるグレート演武や、おもてなし観光案内、記念撮影などが観光客に大好評を得ている

岡崎市経済振興部観光課長
岡崎市観光協会事務局長
廣山 嘉也（ひろやま よしや）

家康公検定模擬試験 弐

問 家康公が生まれたとき岡崎城に現れた空想上の動物で、岡崎城の別名にもなっているものは何でしょうか。

①麒麟
②獏
③鳳凰
④竜

大御所 理想政治の都

駿府 静岡

家康公の知的財産を集積・発信

「徳川家康公顕彰四百年記念事業」をとりまとめる事務局の「静岡商工会議所」では、家康公四百年祭が行われる記念の年を迎えるにあたり地域の魅力向上と活性化を図るために、シンボルマークや陣羽織、幟（のぼり）の製作・販売などを行い、気運の向上に努めている。また、家康が大御所時代を過ごした文化と教養の地として、家康の歴史や思想の共有化に力を注いでいる。

徳川の知恵と文化を誇りに

―家康を巡る歴史背景は？

「家康公は少年時代に駿府の今川氏の元で人質として過ごしながら知識や教養を学びました。将軍職を退いてから大御所として駿府城で過ごしたのはわずか10年足らずですが、当時の家康公は国の外交権を掌握していたため、多くの外国人が駿府を訪れ、実質的に駿府は『日本の首都』としての役割を担っていたのです。このことは市民の記憶に留めておくべきであり、そこに静岡の活性化のヒントがあるのではないかと思います」

―四百周年記念事業に際しての取り組みは

「江戸時代の日本は軍縮革命を実現した平和国家であるだけでなく、究極の循環型社会であり、高度で洗練された文化の成熟期でもありました。そこで、江戸時代を改めて研究し、家康公の知恵や歴史的意義を未来の日本や世界に発信しようという目的で、昨年『徳川みらい学会』が設立されました。法人会員110社、個人会員550人でスタートし、隔月の講演会のほか徳川ゆかりの地を巡るツアー等を実施。記念事業に向けても各種の企画を展開していく予定です」

―この学会を地域活性化にどのようにつなげていく考えですか

「静岡の活性化を図るには、よそでやっているのと同じことをしても意味がないと思います。静岡に来なければ味わえない『こと』をいかに増やしていくかが重要です。そのためには、プロモーションイベントを華々しく打ち上げることよりも、まず先に『徳川みらい学会』などを通して地域の歴史や文化、アイデンティティを認識し、市民が自分の言葉で静岡の良さを語れるようになることが本当の意味での地域振興であり、実質的な活性化につながると思います」

『徳川みらい学会』の講演会の様子。開催後は講演録集にまとめている。徳川家康公顕彰四百年を前に、今年度は記念講演を年6回にわたり開催予定。法人・個人ともに随時会員を募集中

静岡産業大学総合研究所
客員研究員
中村 羊一郎（なかむら よういちろう）

1943（昭和18）年、静岡市生まれ。東京教育大文学部卒。静岡県史編さん室長、静岡市立商業高校長、静岡産業大学教授を経て、2013年から現職。「徳川みらい学会」のアドバイザーを務める。近年はミャンマーの茶文化研究に従事。主な著書は「番茶と日本人」「いまいちばん知りたい国ミャンマー」他多数。

家康公検定模擬試験 参

問 家康公が元服にあたり、これまでの竹千代に替え名乗った名前は何でしょうか？

①清康
②信元
③信康
④元信

解答 壱② 弐④ 参④